



環境大レポート

第27号

Aug. 2016

K A N K Y O D A I R E P O R T



TUESじゃんしゃん愛好会 第52回鳥取じゃんしゃん祭りにて 平成28年8月14日撮影

特集

2 3

Environmental Research Laboratory

実験研究棟

2016年9月より稼働

就職支援

2015年度就職活動結果 / 2017年3月卒業予定者の活動状況

4 5

プロジェクト研究

ニュージーランドの算数教科書を読む

6

キャンパストピックス

今年度から公立鳥取環境大学版リベラルアーツに取り組みます!



クラブ&サークル活動・学友会活動報告

7

女子バスケットボール部・音創部 / 学友会総会を開催



キャンパスニュース

8 9

2016年1月~8月



学生表彰

学生表彰 表彰式を開催



ESSAY

10

副学長として 理事 兼 副学長 兼 人間形成教育センター長 今井 正和 教授 / 環境学部の学部長として 環境学部長 兼 環境経営研究科副研究科長 兼 環境経営研究科環境学専攻長 小林 朋道 教授



人事報告

11

着任挨拶



お知らせ

12

PRコーナー / 主なスケジュール 2016年9月~2017年3月



一
特
集

Environmental Research Laboratory 実験研究棟

2016年9月より稼働

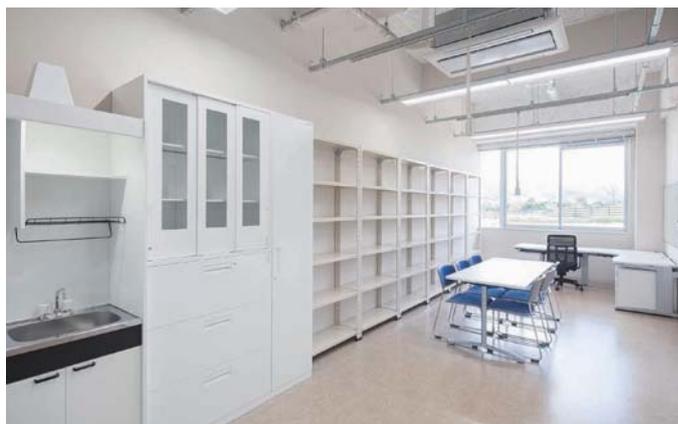
本学では「人と社会と自然との共生」を基本理念に掲げ、豊かな人間性にあふれ、自ら考え行動し、力強く生きる人間を育成することを目的として教育・研究活動を行っています。学生達は、環境学部、経営学部での学びを通して、環境の保全と経済の発展の両面について実践力の修得も含めた学修に励んでいます。

この度、特に環境の保全についての教育・研究活動の一層の向上を目指して実験研究棟を新築しました。環境保全には、生物学、化学、地学、工学など広い分野の知見が必要になります。実験研究棟では、これらの分野に対応したスペースや機材を整えながら、9月からの稼働に備えています。

環境学部長 小林 朋道



1階東ホール入り口



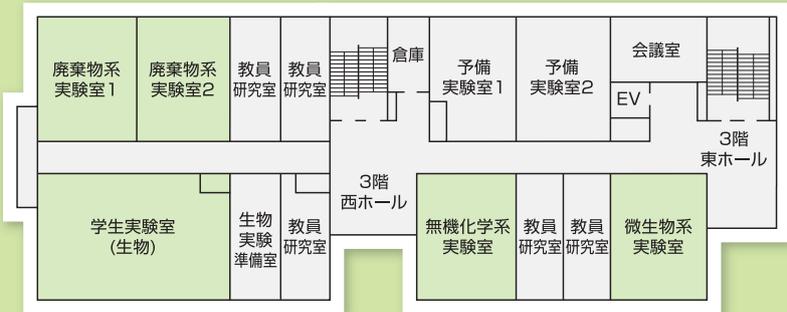
教員研究室

デザインコンセプト

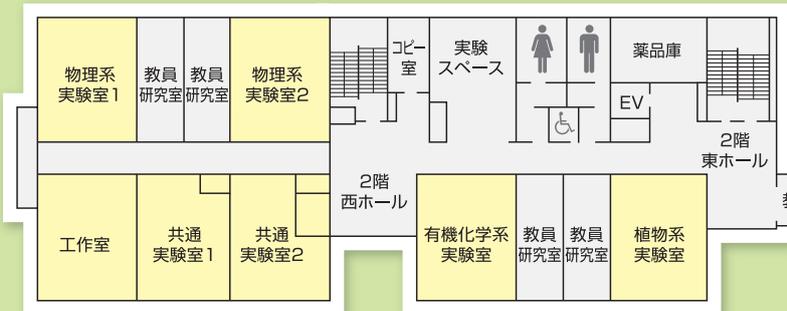
実験研究棟の外観は既施設や周辺の景観との調和を考慮し、アースカラーを基調とした落ち着いた色調としています。また、内部、外部の動線は段差のないバリアフリーとし、できる限り引き戸を採用し開閉の負担を少なくするなど、建物のユニバーサル化に努めています。さらに、自然エネルギーを活用し省エネルギーを図るため、直射日光を軒、ひさし等で遮断したり、自然通風による自然換気の促進、積極的に緑化することによるヒートアイランドの緩和、日射負荷の低減に考慮しています。



3階



2階



1階



物理系実験室



有機化学系実験室



緊急用シャワー・洗眼器



2015年度 就職活動 結果

12期生の就職内定率は98.1%で、開学以来最も高い内定率となりました。景気改善の影響を受け、求人数は増加傾向にあり、大手企業から中小企業まで積極的な採用活動を行っています。

2015年度は就活スケジュールが大幅に変更になりました。会社説明会などの広報活動は3月解禁、面接などの選考活動は8月解禁となり、就活スケジュールは後ろ倒しになりました。先輩達とは異なるスケジュールの中での就職

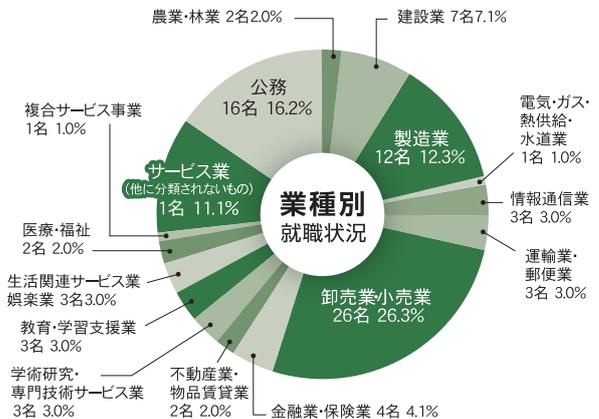
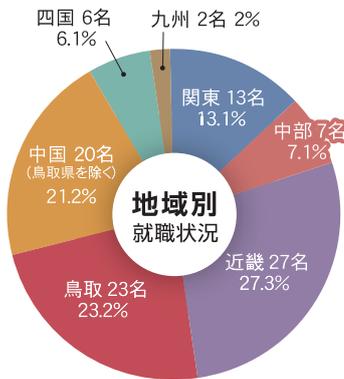
活動は不安が多いながらも、学生達は行動量を増やし、視野を広げながら積極的に就職活動に取り組み、自身が納得いく企業から内定を得られるまでチャレンジする学生も多く見られました。

学生達は、大学で身に付けた専門知識や行動力、大学時代に取り組んだ多くの経験などを持って、社会人としての新生活に胸を膨らませながら卒業していきました。これからの社会の中で大いに活躍してくれるものと期待しています。

環境学部 環境学科 < 主な就職・進学先一覧 >

【公務員】赤穂市/尼崎市/香美町/倉吉市/鳥取県/広島県(教員)/兵庫県(教員)/防衛省/八頭町/若桜町
 【一般企業】<建設業> 広島緑地建設/パナソニックホームエンジニアリング/米子ガス産業<製造業> 秋川牧園/安泰ニット/伊東電機紀州技研工業/ダイケン/太平洋所/鳥取県畜産協同組合/武蔵野/山崎製パン<電気・ガス・熱供給・水道業> アイ・テック<運輸業・郵便業> 九州旅客鉄道/日本郵便<卸売業・小売業> アイビー化粧品/石川マテリアル/イボキン/山陰酸素工業島津理化/東海溶材/中山福/ファミリーマート/モンベル<金融業・保険業> アミタホールディングス/伊予銀行/全日信販<不動産業・物品賃貸業> 穴吹興産<学術研究・専門・技術サービス業> エイト日本技術開発/サンテクノス/上越環境科学センター<複合サービス業> 相生市農業協同組合<サービス業(他に分類されないもの)> 三光/大栄環境/タケイ/ツネイシカムテックス/東洋産業/東洋テック/JCBエクス ほか

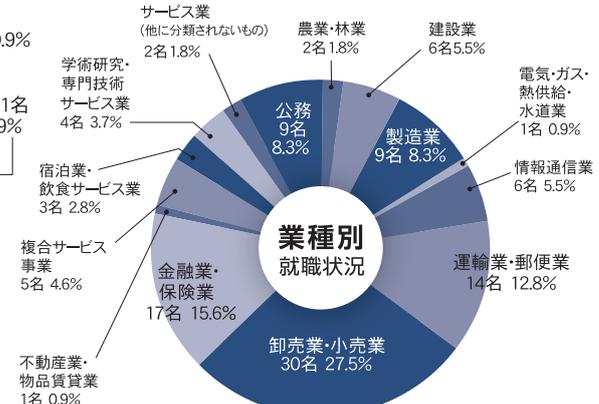
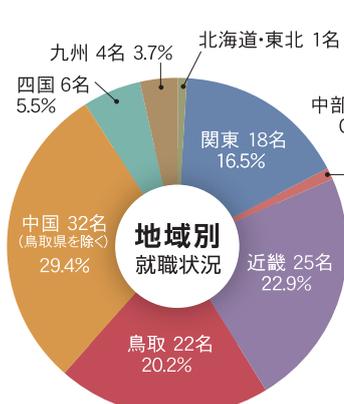
【進学】鹿児島大学大学院/公立鳥取環境大学大学院/鳥根大学大学院/筑波大学大学院/鳥取大学大学院/広島大学大学院/兵庫県立大学大学院/福井県立大学大学院/福岡県教育大学大学院/University of East Anglia



*企業名は業種別50音順/地域は就職内定先の本社所在地/株式会社等省略/2016年3月卒業生実績

経営学部 経営学科 < 主な就職先一覧 >

【公務員】岡山県(学校事務)/鳥取県警察/鳥取市/長崎県警察/福山市/防衛省
 【一般企業】<建設業> 大和ハウス工業/中村建設<製造業> 赤穂化成/寿製菓/太平洋所/テンパール工業/丸和/林業/武蔵野<電気・ガス・熱供給・水道業> 大牟田ガス<情報通信業> アクシス/関電システムソリューションズ/新日本海新聞社/テレビせとうち<運輸業・郵便業> 四国旅客鉄道/鶴崎海陸運輸/西日本旅客鉄道/日本郵便/WILLER TRAINS<卸売業・小売業> 山陰酸素工業/山陰三菱電機機器販売/生活協同組合コープさっぽろ/デザインアーク/西日本メディカルリンク/日興商会/パナソニックコンシューマーマーケティング/ハローズ<金融業・保険業> あいおいニッセイ同和損保/伊予銀行/SMBC日興証券/香川銀行/山陰合同銀行/鳥根銀行/商工組合中央金庫/中国銀行/鳥取銀行/鳥取県信用保証協会/鳥取県農業信用基金協会/トマト銀行/日本海信販/両備信用組合/ゆうちょ銀行/米子信用金庫<学術研究・専門・技術サービス業> 近宣/神戸新聞事業社/昭和設計/トーホー<宿泊業・飲食サービス業> 休暇村協会<教育・学習支援業> 鳥根大学<複合サービス業> 鳥根県農業協同組合/鳥取いなば農業協同組合/鳥取西部農業協同組合/福山市農業協同組合<サービス業(他に分類されないもの)> 岡山県商工会連合会/東京コンサルティングファーム ほか



*企業名は業種別50音順/地域は就職内定先の本社所在地/株式会社等省略/2016年3月卒業生実績



2017年3月卒業予定者の活動状況

就職活動を開始!

2016年2月9日、2015年度最後の就職ガイダンスを行い、2017年3月卒業予定の学生が就職活動をスタートしました。当日は、約200名の学生が参加。業界研究セミナーとして、家電メーカーの販社、食品製造メーカー、金融機関、専門商社のセミナーを開催しました。



2016年3月会社説明会解禁! 合同説明会に参加!

2016年3月、いよいよ会社説明会が解禁となり、採用選考のエントリー受付がスタートしました。本学では、バスをチャーターし、3月1日には「マイナビ就職EXPO大阪」、3月4日は「リクナビ SUPER LIVE 大阪」(ともに大阪市住之江区 インテックス大阪会場)に参加しました。



面接練習会、 Open ES作成講座の開催

Open ES (オープンエントリーシート)は、WEBに登録することで複数の企業に提出できるリクルートのサービスです。就職情報サイト「リクナビ」に求人情報を掲載する企業の中には、Open ESを採用する企業が多数あります。本学では、効果的なOpen ESを作成できるよう、株式会社リクルートキャリアによる講座を2月より3回開催しました。また、3月には人物評価が重視される近年の就職試験への対策として、模擬面接講座を開催しました。



学内企業説明会の開催!

本学学内及び関西オフィスにおいて、企業の個別説明会を2016年3月下旬より開催しています。これまで、延べ約70社の企業が説明会を開催しました。

個別説明会を開催した主な企業

株式会社アクシス(本社:鳥取)、三光株式会社(本社:鳥取)、三洋製紙株式会社(本社:鳥取)、株式会社丸合(本社:鳥取)、流通株式会社(本社:鳥取)、株式会社山陰合同銀行(本社:鳥根)、株式会社ジュンテンドー(本社:鳥根)、エス・バイ・エル・カバヤ株式会社(本社:岡山)、トヨタ部品岡山共販株式会社(本社:岡山)、平林金属株式会社(本社:岡山)、株式会社セイエル(本社:広島)、ダイキンHVACソリューション中四国株式会社(本社:広島)、大阪シーリング印刷株式会社(本社:大阪)、ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社(本社:大阪)、株式会社大洋工作所(本社:大阪)、西日本旅客鉄道株式会社(本社:大阪)、株式会社オファクス(本社:兵庫)、株式会社加美乃素本舗(本社:兵庫)、三相電機株式会社(本社:兵庫)、株式会社日興商会(本社:兵庫)、フジッコ株式会社(本社:兵庫)、株式会社みなど銀行(本社:兵庫)、アイシン高丘エンジニアリング株式会社(本社:愛知)、愛知時計電機株式会社(本社:愛知)、マルサンアイ株式会社(本社:愛知)、株式会社八神製作所(本社:愛知)、新日本コンピュータマネジメント株式会社(本社:東京)、山崎製パン株式会社(本社:東京)、ヤマト運輸株式会社(本社:東京)、一般社団法人日本環境衛生センター(本部:神奈川)



公務員試験対策講座を開講

学内において公務員試験対策の実績が豊富な講師による公務員試験対策を実施しています。

学内資格講座の開講

ファイナンシャルプランナー2級や日商簿記検定2級などの資格取得に向けて、学内でDVDやWEBによる資格取得講座を開講しています。



プロジェクト名

ニュージーランドの算数教科書を読む

本プロジェクトはニュージーランドの算数教科書の英語原書の輪講を中心にニュージーランドの算数教育を考察した。また、この活動を通して計画立案やコミュニケーションなどチームとして活動するための能力の向上を図った。

本プロジェクトの活動は3つの期間からなる。第1期(第1回～5回)は参加者全員による文献の輪講、第2期(第6回～9回)は3～4名のチームに分かれての文献の輪講、第3期(10回～15回)は学生からの提案によるテーマの下での算数教育の調査と考察である。

〈第3期テーマ〉

ニュージーランドの算数教科書におけるミニプロジェクトを考察する

メンバー

大橋和佳奈(環境)、越智和子(環境)
殿谷弓吏瑛(経営)、濱辺菜緒(経営)

概要 参考文献のニュージーランドの算数教科書の“Mini-Project”と呼ぶ演習について、解法や構成を検討し、それが学んだことの実践を強く意識した演習問題であることを確認した。

概要：距離と方向の理解に結びつくような問題となっている。



図 Pearson Mathematic level 3a p128より
問題例：効率よく周るにはどこを目的地にするべきか。目的地までの行き方の説明。

日本とニュージーランドの文化の違い

メンバー

李清和(環境)、米田宗一郎(環境)、毛利雅良(経営)

概要 参考文献のニュージーランドの算数教科書では計算機の導入個所が多くみられ、また、計算の練習は日本の算数の教科書に比べて非常に少ない。このような計算方法の習得についての違いを算数教科書の調査および比較を通して確認し、その背景となる文化の違いを検討した。

教科書の国	計算問題数
日本の教科書	1605問
ニュージーランドの教科書	354問

ニュージーランドと日本の算数の比較

メンバー

矢代優香(環境)、和田祥馬(環境)
神子連也(経営)、増田雄大(経営)

概要 筆算による割り算の計算の記法、問題の内容と配置の仕方など、ニュージーランドと日本の算数教育の考え方の違いを確認した。

●ニュージーランドの筆算

$$\begin{array}{r} 188 \\ 3 \overline{)5^2 6^2 4} \end{array}$$

●日本の筆算

$$\begin{array}{r} 188 \\ 3 \overline{)564} \\ \underline{24} \\ 24 \end{array}$$

プロジェクトアドバイザー 人間形成教育センター 吉田聡

〈参考文献〉①C. Wilkinson, Pearson MATHEMATICS Level 2a, 3a, 3b, 4, 2009. ②青山和裕, 統計的問題解決を始めとする今後の統計教育に関する提案 -ニュージーランドの具体的な指導内容からの示唆-, 第39回日本科学教育学会年會論文集, pp.83-86, 2015年.

Campus Topics

今年度から公立鳥取環境大学版リベラルアーツに取り組みます! ～教育改革カリキュラムを通して幅広い知力、発想力、対応力を持つ人材を育成します。～

2012年度に公立化してから5年が経過しました。これまでの教育、学修の成果や反省を踏まえ、昨年度末に公立鳥取環境大学版リベラルアーツ(教育改革カリキュラム案)を策定し、2016年度入学生を中心に新たなカリキュラムで授業を行っています。

公立鳥取環境大学版リベラルアーツでは、これからの社会で大きな影響力を持つ本学の基盤である環境学と経営学が、益々重要な役割を担っていくと考え、環境マインドに基づく自然科学(数学を含む)、社会科学(経済、経営、歴史等)、人文科学(文学、哲学)、外国語等、深い教養の下地となる基礎教育をリベラルアーツの基礎と定義し、これを深化する教育を進めていきます。

これを確実に推進するため、現在の教育、学修で不足あるいは充実する必要がある科目の新設や重要科目の教員の専任化を図るため、9名の教員(環境学部 3名、経営学部 3名 人間形成教育センター 3名)を新たに採用します。

さらに、世界の標準語である英語能力(特に会話能力)の向上に力を入れます。具体的には、現在の1年生の英語必修授業時間をこれまでの90分から45分間にし、授業回数を年120回から240回に倍増させるとともに、英語必修授業の期間を2年生前期までから2年生後期までと延長します。また、「鳥取学」の必修化等を進めていき、地域志向科目群の充実を図るとともに、実際に少人数クラスやゼミ(プロ研)で地域に出かけ地域と連携しながら、実際の課題を見つけ解決策を考える授業を充実していきます。

各々の学生は自分が所属する学部の学部専門科目、学部基礎科目を受講するだけでなく、もう一方の学部の学部基礎科目も受講できることで、

○環境学の基礎を理解している学士(経営学) ○経営学の基礎を理解している学士(環境学)

となり、それぞれの専門分野の基礎を体系的に学ぶことで、様々な角度から物事を深く見て考える能力を身に付け、今後の様々な世の中の変化に柔軟に対応できる人材を育成していきます。

公立鳥取環境大学版リベラルアーツ





女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は、現在14人で活動を行っています。週3回練習をしていますが、指導者がいないためプレイヤー同士が互いに意見を言い合い、体力や技術の向上に努めています。

昨年は女子バスケットボール部ができて一年目ということで、いろんな大会に出場しました。クラブ登録をし、11月には鳥取県予選を通過して中国大会に出場を果たしました。結果は、一回戦大差で敗北し、他県のレベルの高さを痛感しましたが、強いチームと試合をすることで自分たちに何が足りないのか勉強することができ、とても良い経験になりました。

まだまだ人数が少なく小規模な部ですが、仲の良さと向上心で今後も様々な大会に出場していきたいと思います。

代表：原川 珠美（環境学部 3年生）



音創部

私たち音創部は80人以上の部員を持つ公立鳥取環境大学の軽音楽サークルです。毎日多くのバンドが部室の音響設備や自分の楽器を持ち寄って練習しています。先輩後輩の垣根を越えて、演奏の技術や音楽の知識を教え合ったり、互いの演奏を評価しあったりすることで演奏技術の向上を目指しています。

ほとんど毎月行われる定期ライブでは、それぞれのバンドが練習してきたすべてを出し切って演奏します。ライブでの演者とお客さんとの一体感は、一度経験したら忘れられないほどの達成感があります。

活動の幅は学内だけでは収まらず、市内のライブハウスや音楽イベントにも積極的に参加しています。音楽を通じて地域の方々とのコミュニケーションをとっています。

これからも学生や地域の方々に音楽の楽しさを感じていただけるように精進していきます。

代表：足立 理功（経営学部 3年生）

学友会 活動報告

5月27日(金)に平成27年度学友会総会を開催し、平成28年度の役員及び事業計画が承認されました。

役員

学友会会長	三好 正隆（環境学部 3年生）
学友会副会長	那須 絵里（経営学部 2年生）
学友会書記長	朴 鈺（経営学部 3年生）
学友会会計長	大森 祐貴（環境学部 2年生）
学生ISO委員会委員長	濱口 文瑠（環境学部 2年生）
クラブ会委員長	大関 駿（経営学部 2年生）
大学祭実行委員会委員長	玉田 萌香（経営学部 2年生）
卒業アルバム製作委員会委員長	鈴木 友大（環境学部 2年生）
TUESしゃんしゃん愛好会委員長	林 稔真（環境学部 2年生）
新入生歓迎会実行委員会	10月発足予定
卒業記念事業実行委員会	11月発足予定

主な事業計画

6月	チャリティーイベント(学友会執行部)
7月	第12期卒業生への卒業アルバム発行(卒業アルバム製作委員会) JUMP～日本列島を軽くしよう～(学生ISO委員会) 学内清掃(学生ISO委員会) スポーツ大会(クラブ会) 第1種会[クラブ代表者会議](クラブ会) 第3種会[ローテーション会議](クラブ会)
8月	鳥取しゃんしゃん祭(TUESしゃんしゃん愛好会)
9月	全国環境ISO学生大会(学生ISO委員会) 後期ISOレクチャー(学生ISO委員会) ミニ環謝祭(大学祭実行委員会)
10月	ISO14001内部監査(学生ISO委員会) 環謝祭(大学祭実行委員会) 第3種会[ローテーション会議](クラブ会) 新入生歓迎会実行委員会発足(学友会執行部)
11月	スポーツ大会(クラブ会) AQUA SOCIAL FES!!2016(学生ISO委員会) 卒業記念事業実行委員会発足(学友会執行部)
12月	ecocon2016(学生ISO委員会) 年末大掃除(学生ISO委員会) 平成28年度決算審議開始(学友会執行部及び各運営委員会) 第1種会[クラブ代表者会議](クラブ会)
1月	平成29年度予算審議開始(学友会執行部及び各運営委員会)
2月	第3種会[ローテーション会議](クラブ会)
3月	卒業記念パーティー(卒業記念事業実行委員会)
4月	新入生向け学友会レクチャー(学友会執行部) 前期ISOレクチャー(学生ISO委員会) 新入生歓迎会・学内探検(新入生歓迎会実行委員会) 第3種会[ローテーション会議](クラブ会) 学外清掃(学生ISO委員会)
5月	平成28年度学友会定例総会(学友会執行部及び各運営委員会)



学生たちによる子どもたちの学習支援「環大スタディ」始まる!!

2016年1月13日より、毎週水曜日午後6時半から8時まで、本学まちなかキャンパスにおいて、環大スタディ(略称カンスタ)と称した新たな取組が始まりました。これは、文部科学省が進めている地域創生推進事業(COC事業)に、本学の「麒麟の知(地)による学生教育プログラム」が採択されたことを契機に、現在、教職課程を履修している4年生たち自身が地域に貢献することと、自らの教育実践力を高めるために、企画した取組です。

鳥取県・鳥取市の両教育委員会、周辺の中学校、高等学校の理解と協力も得て、自作のポスターやチラシを配布し、子どもたちに呼びかけて始まったこの取組には、毎回学生約10名がボランティアとして参加、毎週やってくる周辺地域の中学生や高校生が持参する宿題や課題等のアドバイスに、マンツーマンで取り組んでいます。中には、進路の相談や部活動のことなど、年齢が近いだけに学生たちに様々な相談をする子どもたちもおり、終始、静かに落ち着いて学習しながらも温かい雰囲気になった場となっています。

参加学生からは、「鳥取でお世話になった恩返しになれば」という言葉や「答えではなくヒントを出していく、改めて教えるって難しいなあ」といった言葉が出ていますし、一方、毎週やってくる中学生からは、「話しやすい相談しやすい」という感想も聞いています。



2016年度 公立鳥取環境大学 学部・大学院入学式を挙

4月4日(月)、とりぎん文化会館梨花ホールにおいて、入学式を挙行了しました。学部生

292名(環境学部142名(うち3年次編入学1名)、経営学部150名)、大学院生3名が入学しました。

式典では、学部新入生代表の近本美乃里さんと、大学院新入生代表の荻原悠季さんがそれぞれ入学宣誓を行い、近本さんは「自然豊かな環境で様々な体験を通し、生き物の生態や地域の特色を直接感じることでより深い知識を身につけるとともに、自然とどのように向き合い、資源をどのように活用すべきかを学び、大学の基本理念である「人と社会と自然との共生」を実現するため、研究していきたい」と、今後の意気込みを述べました。

また、歓迎セレモニーでは、和太鼓部による和太鼓演奏が行われ、力強く勇壮な演技が披露されました。



研究紹介:世界初、砂に潜る小さなイシサンゴの発見 — 海洋生物学における新たな知見 — (徳田講師)

本学環境学部の徳田悠希講師は、千徳明日香博士(京都大学瀬戸臨海実験所)、江崎洋一教授(大阪市立大学大学院)との共同研究で、日本近海の海底の砂中に自ら潜り生活する、移動するイシサンゴ(タマサンゴ)を発見しました(図1参照)。従来、イシサンゴ類でこのような生活様式は知られておらず、世界で初めての発見です。さらに、このような砂中に潜って生活するサンゴは、約8000万年前の

後期白亜紀にすでに地球上に登場していたことも明らかとなりました。

この研究は、Nature Publishing Groupが発行する「Scientific Reports」において、論文が掲載されています。

【研究論文名】

Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago (8000万年前から海底に出現していた潜行性イシサンゴ)

【著者】

千徳明日香(京都大学瀬戸臨海実験所)、徳田悠希(公立鳥取環境大学・鳥取県立博物館)、江崎洋一(大阪市立大学大学院)

【公表雑誌】

Scientific Reports (Nature Publishing Group)

発表論文URL: <http://www.nature.com/articles/srep24355>

【研究成果のポイント】

○タマサンゴの飼育実験を行い、世界で初めて、砂の中に自ら潜り生活するイシサンゴを発見し、沖合の砂泥底に生息するイシサンゴの生活様式が明らかとなった。

○砂中への潜行、姿勢の回復、砂による埋没からの脱出は、軟体部(ポリプ)が膨張収縮を繰り返すことで生じる。

○このような砂の中へ潜るイシサンゴは、白亜紀後期の約8000万年前にすでに地球上に登場し、その後、多様化した。



※図1:砂を掘って潜るタマサンゴ

岩美町と地域活性化を目的とした協定を締結 ～実践的な教育により地域活性化に貢献～

5月26日(木)、本学と岩美町は岩美町役場において連携協力に関する協定調印式を行いました。これは、両者がこれまで積み重ねてきた連携実績と信頼関係をベースに、教員の



専門知識、学生の知的好奇心や活力等を源とする教育・研究活動等を加速させることによる岩美町の地域活性化を目的としています。

これまで本学では、ジオパークや漁業関係などの岩美町の地域資源を題材とする研究・教育活動に取り組んできたほか、外国人スタッフが岩美町に出張して行う英語村、教員による講習会の開催など地域住民との交流も盛んに行っています。

また、本学は、昨年10月に国から「地(知)の拠点大学」(COC事業)の認定を受け、今年4月からはこれを一層推進するため、学生がより地域と深い関わりを持つことが出来るようなカリキュラム改革を実施していますが、今回の協定締結は、これら教育活動の幅を広げることにもなります。さらに、本学の地域連携機関として設置している「とっとり麒麟地域活性化プラットフォーム」の活動の成果の一つにも挙げられます。

調印式では、高橋学長から「岩美町の環境は教育研究のフィールドとして最適」、榎本岩美町長から「学生には地元の人が気づかないような提案をしてほしい」という期待のコメントがあったほか、立会人として出席された林鳥取県副知事からは「これまで教員が個々に行っていた活動が組織同士のつながりとして協定になったことは意義深い」という発言がありました。

調印式後には、本学の学生2チームが岩美町に関連のあるテーマで発表を行いました。吉永ゼミからは漁村の現状への問題意識から魚食普及にかかわるテレビ番組制作を通じて取り組んでいることを、泉ゼミからはトワイライト瑞風の運行を契機に、山陰を盛り上げるための企画をゴミ拾いイベントと関連させて取り

組んでいることを紹介し、約30名の出席者は熱心に聴き入っていました。



環境学部環境学科 小林朋道教授“先生シリーズ” 最新刊のお知らせ

本学 環境学部環境学科小林朋道教授が『先生、インギンチャクが腹痛を起こしています! [鳥取環境大学]の森の人間動物行動学』を上梓しました。

築地書館刊行の大好評“先生シリーズ”第10作目です。

巻頭では、小林ゼミの部屋で起こった動物たちの珍事件—ゼミ室で飼われている爬虫類(ヘビ)が逃げ出し魚類(コイ)と対面、そして・・・!!他にも南米産の齧歯類(テグー)、モグラの仲間(ヒミズ)など個性豊かな動物たちが巻き起こす事件の数々がユーモラスな語り口で掲載されています。

舞台は、海産動物たちが驚くべき行動を見せる水槽物語、“芦津の森”でニホンモモンガを中心として展開する研究、トチノキとヤギをめぐる物語など、動物博士でなければ遭遇できないような動物たちの生態が生生きと描かれています。

ついに10作目に突入した本作。小林教授と動物たちをめぐるほのぼのどたばた珍騒動からますます目が離せません。ぜひご覧下さい。



オープンキャンパス2016を開催

8月6日(土)、7日(日)、オープンキャンパスを開催しました。連日の猛暑の中、県内外から多くの高校生、保護者、高校教員の方など合わせて85人が来場されました。当日は環境学部・経営学部の研究室公開、学部毎の「模擬授業」に多くの来場者が参加し、本学の教育・研究内容を理解していただきました。

また、学生スタッフによるキャンパス見学ツアーでは、9月に完成予定の「実験研究棟」を学外の方へ初めて公開し、教育・研究環境のさらなる充実に向けた取り組みをご覧いただきました。さらに、教職員、オープンキャンパススタッフやクラブ・サークルの学生達、国際色豊かな英語村スタッフとの交流も楽しみ、本学の魅力を十分感じていただけたと思います。



学生表彰 表彰式を開催

課外活動において顕著な成績や業績を収めた学生へ、表彰状と副賞を授与しました(2016年2月9日~5月31日申請分)。

日商簿記検定 2級

五孝 圭佑

第49回 中国学生弓道競技大会 男子個人 第3位

藤原 涉

ファイナンシャルプランナー 2級

内田 竣介

eco検定

23名(内訳:環境学部 14名・経営学部9名)

TOEIC 公開テスト

葛野 瑠依/妹尾 駿作/五孝 圭佑

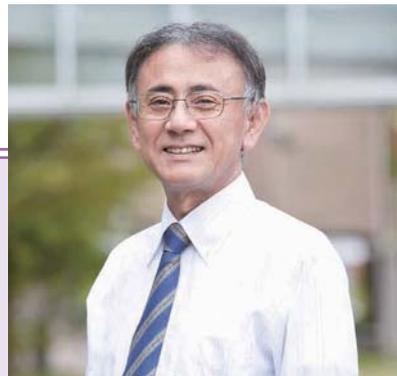
TOEIC IP

松浦 生





副学長として

理事 兼 副学長
兼 人間形成教育センター長**今井 正和** 教授

現在は経営学部の所属となっていますが、情報科学分野の研究をしています。音響信号処理、画像処理、ロボットの研究を行い、ふとしたことからある大学で日本初の電子図書館を構築しました。鳥取環境大学に着任してからは、ネットワークを用いた映像伝送の応用や、気象センサを密に配置してセンサからの情報を収集・蓄積することをテーマとしてきました。

このように書いてみると、それぞれのテーマの間に関連があるような、ないような、

よく分からないことになっているなど感じます。でも本人は、「コンピュータという機械はこんなことができるので、役に立つのだよ」ということを示してきたつもりです。人間の聴覚や視覚をコンピュータで「真似」をする、あるいは情報を溜め込んで必要な時に瞬時に引き出す。そういったことをテーマとしてきたのです。ネットワークを用いた映像伝送の応用については、少し毛色が違うようですが。最近、人工知能、ロボット、電子書籍などが話題になることが

多くなっていますが、それらを見ると「ああ、僕たちがやってきたことが今華開いてるんだなあ」と思います。それと同時に、未来に華咲くための種を仕込まないといけないとの思いを新たにしています。

環境学部の学部長として

環境学部長 兼 環境経営研究科副研究科長
兼 環境経営研究科環境学専攻長**小林 朋道** 教授

公立化になって5年目。公立鳥取環境大学になっての第1期生240名がこの3月に巣立っていきました。そのうち123名が環境学部の学生達です。

ところで、高校の先生方への大学説明会等で、(農学部とか法学部といった既成のものとは異なった)環境学部はどんな学部か、どんなことをするのかといった質問をよく受けます。そんなとき私は次のような答えをします。

環境問題の改善のためには、さまざまな学問分野の研究、実践が必要です。環境学部では、自然環境保全プログラム(大気、水、土壌、生物からなる自然生態系を調べ、健全な状態を維持する方法を採

る)、循環型社会形成プログラム(大量のエネルギーや物質を消費する人間活動が自然生態系に及ぼす影響を調べ、活動が生態系にダメージを与えない方法を探る)、人間環境プログラム(人間が、より快適な生活ができるように作り出してきた、居住地をはじめとした人工的環境を調べ、生態系と共存するあり方を探る)という3つの面から環境問題に取り組みます。学生諸君はフィールドワークを重視して環境問題の全体像を学びつつ、3、4年次で、それぞれが希望する専門分野を深めていく—それが環境に特化した本学部の強みだと思っています。また環境問題に、理論的、実践的にぶつかることを通して、それぞれ

の問題解決能力全体を高めることや教育者への道を目指すことも環境学部の特色だと考えています。

今年度は、環境学部教員の念願であった実験棟も完成する予定です。学部の教員全体が環境問題の全体像を念頭に、各々の専門分野でのびのびと教育、研究に取り組む—そんな姿勢で、学生達としっかり向き合っていきたいと思っています。

人事報告 [2016.4.1付]

西村 教子 教授 副学長補佐(広報担当、研究担当、地域連携・国際交流担当)**荒田 鉄二** 准教授 副学長補佐(教育担当、学生生活・就職担当、情報担当、企画・評価担当)**富岡 庄一** 教授 経営学部長 兼 環境経営研究科長 兼 環境経営研究科経営学専攻長**岡崎 誠** 教授 環境情報学部長 兼 環境情報学研究科長 兼 サステイナビリティ研究所長**齊藤 明紀** 教授 情報メディアセンター長**吉永 郁生** 教授 地域イノベーション研究センター長**北崎 寛** 教授 国際交流センター長 兼 人間形成教育センター副センター長(2016.6.3~)**根本 昌彦** 教授 環境学部副学部長**石川 真澄** 准教授 経営学部副学部長**名古屋 孝幸** 准教授 人間形成教育センター副センター長



着 | 任 | 挨 | 拶



人間形成教育センター
山西 敏博 教授

4月より人間形成教育センターにて着任いたしました。言語社会学を筆頭に、TestingやENIE(新聞活用教育:時事英語)、CLIL(内容言語統合学習)を専門としながら、授業は英語科目全般を担当しています。【日本列島徒歩縦断】を行いつつ、海外は35ヶ国・地域を放浪し、各種心理カウンセリング資格を有しています。「世界の人々と生命をつなぐための言語」—英語「で」環境学・経営学を身につけるための基礎力と対話力を学んでいきましょう。全国各地やアジア諸国から集った、志の高い皆さんとお会いできた事を嬉しく思います。素晴らしい自然環境に溢れるこの鳥取の大地で、皆さんと共にさらに成長していきたいと願っています。



人間形成教育センター
桑本 裕二 教授

本年4月に人間形成教育センターに着任いたしました。本学では英語の授業を担当します。英語を使って必要な情報を理解したり、思っていることを自由に表現できるようになるには、まずしっかりと文法や構文について知ることだと思います。「慣れさえすればどうにかなる」という考えがどうも教える側の人にも横行していますが、何も教えないまま英語で授業をするなどというのは全くおかしな教育です。

3月までは秋田に住んでいましたが、高校までは倉吉で生活していました。赴任して間もない頃、周りの人たちに「ここ(鳥取)は冬が寒いですよ、雪が降るし…」などと言われて返答に困ったものです。地元の風土や環境を生かした教育ができればと思っています。



環境学部
笠木 哲也 准教授

本年4月に環境学部に着任いたしました。幼少を広島で過ごした後、学校や仕事の都合で東京、宇都宮、札幌、金沢と移り住み、この度ようやく中国地方に戻ってきました。私の専門は植物生態学で、植物だけでなく、植物と関わる昆虫や動物も研究対象にします。日本は南北に長く、しかも太平洋側と日本海側で気候が全く違うので、地域によって自然の様子が大きく異なります。鳥取の自然環境も私のこれまでのフィールドとはかなり違うので、大学周辺の林を歩いても、山に登っても「楽しい」発見の連続です。教育・研究では科学的方法論や調査技術の指導を重視しますが、学生には「楽しい」という気持ちを持ってもらえるようにしたいと思っています。



環境学部
山本 敦史 講師

はじめまして。この4月に環境学部に着任いたしました山本敦史です。私たち人間は様々な化学物質を新しく作り出し、暮らしを多様で便利なものにしてきました。その結果、今では人間以外の生物も私たちの作り出した化学物質に囲まれて暮らしています。私は分析化学が専門で、これまで環境中の微量化学物質についての研究を行ってきました。水や大気環境、暮らしの回りに見られる身近な化学物質は、適正な物質循環・環境と人々のつながりを考える上でよい材料になると考えています。本学ではまもなく新しい実験棟が稼働予定であり、私もそちらにて新しい教育・研究活動を始められることを嬉しく思っています。



環境学部
徳田 悠希 講師

本年4月に環境学部に着任いたしました。私の専門は地質学・古生物学で、化石や地層を研究し、大地に刻まれた地球や生物の歴史を読み解いています。本学では環境への意識が高い学生が数多く学ばれていますが、現在の自然環境の成り立ちを理解し、未来の環境を予測するためには、過去を知ることが非常に重要となります。今後は現在の鳥取県や日本海の自然環境がどのような歴史をたどり成り立ってきたのかを学生とともに研究していきたいと思っております。本学での教育と研究に貢献できるよう精一杯努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



地域イノベーション
研究センター
太田 太郎
特命准教授

今年4月より地域イノベーション研究センターの特命准教授に着任しました。3月までは鳥取県職員として県庁水産課、湯梨浜町にある県の栽培漁業センター、境港市にある県の水産試験場で計14年間勤務して参りました。経歴からもお分かりいただけるように、私の専門は「海」、「魚」、「水産業」です。

鳥取県の最大の魅力は、「豊かな自然と産業のつながり」だと感じています。この魅力の一つでも多く学生の皆さんと共有していきたいと思っています。地域イノベーション研究センターは地域と学生の皆さんを繋ぐ窓口です。地域を知りたい、地域で活動したいという方は是非お気軽に地域イノベーション研究センターにお越しください。

詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座 2016

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。ぜひ、ご参加ください(要事前申込)。

- 日程：主なスケジュール参照
- 会場：鳥取県立図書館 他

お問い合わせ 企画広報課

TEL 0857-38-6704

E-mail kikaku@kankyo-u.ac.jp

大学祭

第16回 環謝祭(大学祭)

アーティストによるコンサートや芸能人によるトークショー、参加団体による出店やユニークなパフォーマンスステージなども予定しています。

- 日程：2016年10月15日(土)・16日(日)
- 会場：公立鳥取環境大学

お問い合わせ 大学祭実行委員会

E-mail gakusai@kankyo-u.ac.jp

HP <http://kansyasai2016-web.jimdo.com>

情報メディアセンターの一般開放について

情報メディアセンター(図書館)では、地域の皆さまにご利用いただくよう、一般開放しております。館内での閲覧(自由)以外に、図書の貸出(視聴覚資料などを除く)も行っていますので、ぜひご利用ください。

● 開館時間

平日/9:00~19:00
(本学夏冬春期休業中は17:00まで)
土曜日/9:00~15:00

● 休館日

日曜日、祝祭日、各月月末(平日、土曜日の場合)
夏冬春期休業中の土曜日、年末年始
その他臨時休館あり

図書の貸出には利用者カード(無料)が必要です。
詳細はホームページをご確認ください。

お問い合わせ 情報メディアセンター

TEL 0857-38-6730

E-mail lib@kankyo-u.ac.jp

HP <http://www.kankyo-u.ac.jp/media/>

主なスケジュール(2016年9月~2017年3月)

毎週木曜日 毎週月・水曜日	まちなか英語村(まちなかキャンパス) ミニ里山生物園(まちなかキャンパス)	
9/6	公開講座 TOEIC講座 - 新形式問題対策を中心に - (まちなかキャンパス)	企画広報課
9/7~9/16	情報メディアセンター蔵書点検(休館日)	図書情報課
9/13	公開講座 TOEIC講座 - 新形式問題対策を中心に - (まちなかキャンパス)	企画広報課
9/16	3年次編入入試(1期)・大学院入試(1期)	入試室
9/20	公開講座 TOEIC講座 - 新形式問題対策を中心に - (まちなかキャンパス)	企画広報課
9/26	後期ガイダンス	学務課
9/26~9/29	履修登録期間	学務課
9/30	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課
9/30~10/6	履修科目変更期間	学務課
10/1~10/2	AO入試(学内立入禁止)	入試室
10/14	金曜日の授業日/午後休講	学務課
10/15~10/16	第16回環謝祭(大学祭)	学務課
10/17	午前休講	学務課
10/30	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課
10/31	後期授業料納入期限	総務課
11/5	公開講座 ごみと海のかかわり - 世界的課題となった海ごみ問題 - (鳥取県立図書館)	企画広報課
11/12	公開講座 ごみと海のかかわり - 世界的課題となった海ごみ問題 - (西部サテライトキャンパス)	企画広報課
11/19~11/20	推薦入試	入試室
11/26	公開講座 ごみと海のかかわり - 世界的課題となった海ごみ問題 - (倉吉 BYヨング)	企画広報課
11/26	全国高校生環境論文TUESカップ 論文報告会・表彰式 (とりぎん文化会館)	企画広報課
11/30	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課
12/27	金曜日の授業日	学務課
12/28	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課
12/29~1/3	事務取扱休業	総務課
1/13	センター試験前日準備(全日休講)	入試室
1/14~1/15	大学入試センター試験(学内立入禁止)	入試室
1/31	プロジェクト研究発表会	総務課
2/6~2/10	後期試験	学務課
2/11	公開講座 緑は大地のお医者様(西部サテライトキャンパス)	企画広報課
2/13	私費外国人留学生・帰国生徒・社会人入試	入試室
2/14	3年次編入入試(2期)・大学院入試(2期)	入試室
2/15~2/17	後期追試験	学務課
2/18	公開講座 緑は大地のお医者様(鳥取県立図書館)	企画広報課
2/25	一般入試前期日程(学内立入禁止)	入試室
2/28	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課
3/4	公開講座 地域の構造、課題と展望(鳥取県立図書館)	企画広報課
3/11	公開講座 地域の構造、課題と展望(西部サテライトキャンパス)	企画広報課
3/13	一般入試後期日程(学内立入禁止)	入試室
3/18	学位授与式(とりぎん文化会館)	総務課
3/31	情報メディアセンター月末休館日	図書情報課

*発行日現在の情報です。最新の日程等は本学公式ホームページで確認ください。



ソーシャルメディア運用中!

「公立鳥取環境大学の今」を発信!

TwitterやFacebookページなどで公立鳥取環境大学の最新情報を発信しています。パンフレットや公式ホームページでは紹介しきれないニュースや出来事など「公立鳥取環境大学の今」を発信しています。



ソーシャル・メディア公式アカウント一覧

http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social_m/